



英知

深遠な道理を探索し、深い知性、実践的な知恵。真の实在や心理を捉えることのできる認識力・実践力の育成。



本校と一般社団法人コンサドーレ北海道スポーツクラブは11月25日(金)、地域におけるスポーツの普及と振興を図るとともに、地域で活躍し世界へ羽ばたける人材の育成を行い、地域社会の発展に寄与することを目的とした提携に基づき、本合意しました。本合意により、本学ではまず、この度設立される北海道コンサドーレ札幌パドミントンチームへの連携、協力を行っていくこととなります。

コンサドーレ北海道スポーツクラブとスポーツ振興提携の基本合意を締結

根を下ろし、飛躍する精神力と行動力をもった社会に貢献する人材の育成と「北方圏でつながる他の地域との交流を通じ、国際社会の一員として世界に羽ばたく人材の輩出」という想いに合致しており、今後さらに様々なスポーツの普及、発展のために連携、協力を進めていきたいと思っています。

◆コンサドーレ北海道スポーツクラブ
代表理事・三上大勝様
「パドミントンチーム設立にご協力いただき北海道大学さんとの間で提携を結びました。スポーツや地域振興に関する双方のノウハウを一体化し、チームを大きく成長させていくとともに、夢のあるクラブであり続けることができるよう協力していきたいと思います」

◆西村弘行学長
「様々なスポーツで活躍する学生が在籍する本学では、本協定は教育的観点において大きな意味を持つとともに、地域貢献にも波及するものと思います。パドミントンをきっかけとしてスポーツの総合的な普及・発展のために協力していきたいと考えています」



Campus Archive

キャンパス・アーカイブ 2016年10月～2017年1月までの出来事

1COIN朝食週間

ボリニウム&栄養満点の朝食を100円で！

江別地区の4大学が毎年春・秋に実施している「食生活改善運動(1COIN朝食週間)」。学生の健康的な暮らしを支える活動の一環として、朝食を食べる習慣を身につけてもらうために企画され、毎回好評を得ています。昨秋は10月26日(水)～28日(金)の3日間、PAL4階の食堂にて、毎朝150食を100円で提供しました。

1Coin 朝食週間 day1 10/26



バランス朝食

忙しい朝は、カルシウムとタンパク質でパワーアップ！



1日目メニューの栄養価	(Menu)
エネルギー 849 kcal	・ヘルシードライカレー
たんぱく質 29.6g	・ひじき入りサラダ
脂質 23.7g	・あさりとうれん草のスープ
塩分 3.6g	・フルーツ
	・牛乳

1Coin 朝食週間 day2 10/27



あったか朝食

参鶏湯風スープは栄養価も高く身体もあったか！
たっぷり食べて脳も体も活性化！



2日目メニューの栄養価	(Menu)
エネルギー 854kcal	・参鶏湯風スープごはん
たんぱく質 35.2g	・もち麦ごはん又は白飯
脂質 17.4g	・ほうれん草のピーナツ和え
塩分 4.1g	・フルーツヨーグルト
	・牛乳

1Coin 朝食週間 day3 10/28



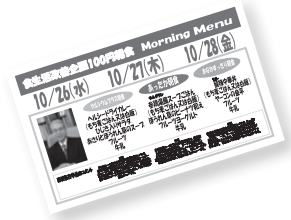
おなかすっきり朝食

サンラー中華丼で今日も元気にパワーアップ！



3日目メニューの栄養価	(Menu)
エネルギー 850kcal	・酸辣(サンラー)中華丼
たんぱく質 30.0g	・もち麦ごはん又は白飯
脂質 18.9g	・ヤーコンのきんぴら
塩分 4.0g	・フルーツ
	・牛乳

10月26日～10月28日の3日間で開催された「2016秋の食生活改善運動:朝食週間」が無事終了いたしました。早朝から朝食準備にご協力を頂きました食堂スタッフの皆様、ありがとうございます。



本学から2名が

ユニバーシアードに参戦しました！

「第28回ユニバーシアード冬季競技大会(1月29日(日)～2月8日(水)、カザフスタン・アルマティ)への出発を目前に控えた1月20日(金)、アイスホッケー女子」



日本代表の坂下三冬(スポーツ教育学科1年)、スケートのショートラック強化スタッフのトレーナーとして参加する吉田昌弘准教授(スポーツ教育学科)が、西村弘行学長に健闘を誓いました。

初の国際大会出場となる坂下は、本学で勉学に励みながら、クラブチームのボルトテックス札幌で活動中。海外でも活躍できるように「一杯プレッシャー」と意気込みを語り、西村学長は「全力を尽くしてけがのないように頑張ってください」と激励しました。

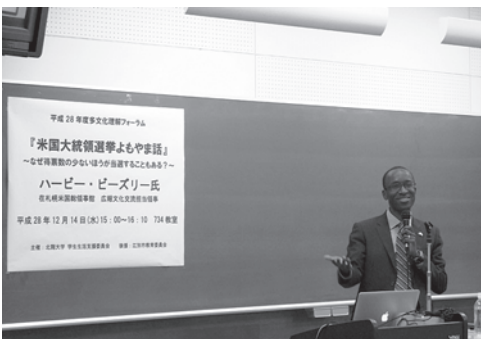
スケート日本代表の海外遠征に帯同することが多く、ユニバーシアードは前回大会に続いて2回目となる吉田准教授は「選手がよい結果を出せるようにサポートしたい」と語りました。

第9回多文化理解フォーラム

「米国大統領選挙よもやま話」

12月14日(水)に「第9回多文化理解フォーラム」が開催され、学生教職員や一般市民など、約80名が参加しました。

ゲストスピーカーは、在札幌米



国総領事館・広報文化交流担当領事のハービー・ビズリー氏。インドと中国の領事館を経て、2015年に札幌に着任されました。「米国大統領選挙よもやま話」な得票数の少ない候補者が当選することもある?と題し、世界中が注目したアメリカ大統領選挙について、ユーモアを交えながらお話いただきました。

質問コーナーでは「アメリカ選挙の仕組みがわかりづらい」「この結果をメディアはどれだけ予想できていたのか」など、鋭い質問が多々ありましたが、ビズリー氏はどの質問にもわかりやすく、丁寧に答えてくださいました。また最後にはお土産として、来場者に共和党と民主党のバッジをプレゼントしていただきました。



学生スタッフ 新人研修 いよいよ本番

1月13日(金)、図書館学生スタッフの業務研修を館内で実施しました。

現在、学生スタッフは総勢14名。この日は12月に採用されたばかりの新人スタッフ5名が参加し、3月に卒業する先輩を講師役に新入生オリエンテーションと図書配架作業の指導を受けました。

新入生オリエンテーションは、全学共通科目「基礎教育セミナーI」に組み込まれ、全学科の新入生が参加する大イベントです。授業、サークル、就活など学生生活の充実に欠かせない図書館の活用方法を、学生スタッフが説明しながら館内を巡ります。プレゼンテーション力が求められる業務で、説明にも力が入ります。

返却された図書を書架に戻す配架作業は、次に使う人のための大事な仕事です。ラベルの記号順に並べるだけでなく、気持ちよく使えるよう棚全体を整えることも学びました。

マニュアルでは伝えきれない現場の業務。指導する側もされる側も真剣そのものの90分でした。

エクステンションセンターニュース

尾形良子 准教授 (生涯スポーツ学部) 道民カレッジ「生活を守る地域住民たち」の講師に



インターネット講座収録風景

生涯スポーツ学部健康福祉学科の尾形良子准教授が道民カレッジ「大学インターネット講座」の講師を務めました。「生活を守る地域住民たち～江別市シルバー人材センターが担う地域福祉～」をテーマにした講義がインターネット配信されています。

シルバー人材センターとは、地元の高齢者に仕事を紹介し、働くことを通じて生きがいを得てもらおうとともに、地域社会の活性化に貢献するための組織で、市(区)町村単位で設置されています。講義ではセンターの活動内容や会員の声を紹介しながら、その社会的意義や今後の課題などについて解説しています。ぜひご覧ください。

【視聴サイト】
<http://www.hsgk.jp/kouza/html>

北海道札幌平岸高等学校と 高大連携調印式を執り行いました

北海道札幌平岸高等学校との高大連携調印式が12月11日(日)、北翔大学北方圏芸術情報センター「ポルト」において執り行われました。本学では高大連携を積極的に推進しており、これが12校目の協定となります。

本学と札幌平岸高校では、それぞれの芸術学科とデザインアートコースを中心に、すでに連携交流が活発に行われています。今回の調印式は、本年度6回目となる合同ファッションショーが終了したばかりの熱気冷めやらぬポルトホールにおいて挙行されました。

西村弘行学長は調印後、「札幌平岸高校は北海道内で唯一のデザインアートコースを有しており、これまで芸術学科と様々な活動を協働で行ってきました。芸術学科には美術、メディアデザイン、インテリア建築、服飾美術、舞台芸術の5分野があります。また、短期大学部のライフデザイン学科にはファッション舞台アートコースがあり、それぞれがシクロして活動しています。この協定を契機に、芸術分野に留まらずスポーツ分野、教員養成分野、福祉分野、臨床心理分野などにおいて幅広く連携していきたい」と、今後の展望を語りました。

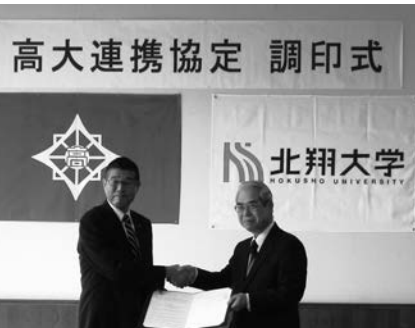
札幌平岸高校の林恵子校長からは、これまでの支援に対する謝辞が述べられるとともに、「高等学校だけでは実施できない高度な内容のファッションショーに取り組んできたことは、貴重な学習の機会となっており、生徒たちがこの連携協定によって提供される学習の機会を十分に活かして自身の学びを深めることを期待しています。また、研究交流や情報交換によって双方の教育活動が充実していくことを願っています」というお話がありました。



北海道岩見沢緑陵高等学校と 高大連携調印式を執り行いました

北海道岩見沢緑陵高等学校との高大連携調印式が10月13日(木)、北翔大学にて執り行われました。本学では、これが11校目の高大連携協定となります。

岩見沢緑陵高校とは、すでに男子バレーボール部が合同練習や練習試合などの連携交流を行っています。部活動が活発な同校からは、このほかにも多くの体育系部活や吹奏楽部などへ講師や学生を派遣してほしいという要望をいただきました。また、同校は4月にスポーツ総合コースを新設しており、生涯スポーツ学部教員による講義体験や施設見学などにも期待していると語られました。



西村弘行学長は、「岩見沢緑陵高校からは大勢の学生が本学へ進学しており、これを機会にさらに多くの学生を迎えて、質の高い教育を提供していきたい」と語り、同校の高瀬雅明校長からは「この連携を活かして特色のある教育をさらに推進し、地域に貢献できる人材を育成したい」という展望が述べられました。

北海道月形高等学校で トーキングワークショップを開催

9月15日(木)、北海道月形高等学校の体育館にて、大学院生2名・学生16名の計18名と、月形高校の全校生徒116名によるワークショップが行われました。

タイトルは「ツキトワーク!」遠くいてもtalkでつながる。」「将来の目標はどうやって見つける?」「将来に向けて今からできることって?」というテーマを設定し、高校生が大学生の経験に基づくアドバイスを受けるながら活動しました。小グループに分かれてアットホームな話し合いが展開された後、大グループでシェアリングを行ったプレゼンテーション内容を吟味し、最後に代表に選ばれた生徒からの発表がありました。



閉会式では、高校生代表からのお礼の挨拶や、大学生代表による挨拶などがあり、本学教員からは高校生への熱いメッセージが贈られました。終了後は拍手で見送られながら会場を後にしました。参加した学生にとって非常に価値のある経験になったことでしょう。

北海道留寿都高等学校が 本学の福祉関連施設を見学

11月9日(水)、北海道留寿都高等学校の生徒18名が本学の福祉関連施設を見学するために訪れました。西村弘行学長から歓迎の言葉と本学についての説明があり、施設見学がスタートしました。

介護実習室と入浴実習室では、概要説明について真剣に聞き入り、メモを取る姿が見受けられました。その後、入浴実習室では車いすに座ってリフトに乗り込んだり、介護実習室では電動ベッドや福祉用具に触れるなどして、本格的な設備に感激している様子でした。

次に臨床心理センターへ。センターの役割や臨床心理士の仕事について説明を受けてから、センター内にあるプレイルームなどの施設を見学しました。実習に関することなど、積極的に質問をする姿が印象的でした。



昼休みでにぎわう食堂では、学生とともに学長推薦メニューを体験。とてもおいしい」と大好評でした。食後は北方圏生涯スポーツ研究センター「スボル」を見学。クライミングウォールや大きなホール、器械体操の専用練習場などに驚いていたようです。最後にスボル前で記念撮影をして別れました。

北海道恵庭南高等学校の生徒が 本学で「専門演習」に参加

生涯スポーツ学部では8月29日(月)、北海道恵庭南高等学校との高大連携事業を実施。同校の生徒を本学キャンパスにお招きし、大学ならではの学びである「専門演習(ゼミナール)」を体験してもらいました。

「からだを支える筋肉・骨・脂肪(身体組成学)」や「バレーボールのゲーム分析」「褥瘡(じよくそう)を防ぐ『安楽な体位』を考える」などの演習科目が用意され、生徒たちは各科目に分かれて学びをスタート。実験・実習を通じて学びを深めました。また、学食体験も実施し、楽しい昼食のひとときを過ごしてもらいました。



北海道ドレスメーカー学院 Mode Collection x Creation開催!

2月3日に進級卒業制作審査会が開催され、学生たちが立ち上げた22ブランドの審査会が行われました。引き続き、2月4日には第77回北海道ドレスメーカー学院 Mode Collection x Creationが開催されました。



産学連携授業
商品共同プロデュース!
札幌丸井三越・イガタワークスと産学連携授業の一環としてコラボしました。「包む」を新しい視点で企画、デザインし、売り場展開プランまでを立案。10月19・29日の期間、札幌三越にてワークショップと同時販売し、売場商品も出るなど、大好評を得ました。



エバーゾーンxドレメ
オフイシャルグッズコラボ
企画第1弾開催!
北海道を中心に活動しているアイドルグループ・エバーゾーンのオフイシャルグッズ企画として、Tシャツデザインコンテストを開催。ファッションデザイン科3年篠原菜緒さんの作品が商品化されました。



パセオクリエイターズ
キャンプに参加しました!
10月15・30日の期間で開催されたパセオクリエイターズキャンプのファッションショーに参加し、会場を盛り上げました!



ACFアートステージ
ファッションコンテスト
10月1日にACFアートステージのファッションコンテスト最終審査会が開催されました。入選したファッション総合学科2年前川原由妃さんの作品も発表されました。また、同時に開催されたファッションショーにも参加し好評を博しました。



ドレメカルチャール
スクール開講中!
初心者(部分縫いからミシンの扱い等)はじめ、小物作り、リメイクまたは、希望者には製図まで、ソーイングの基礎から応用までしっかり学べる大人気!午前・午後の部のお好きな時間を選んで受講できるので、それぞれの目的や自身のペースに合わせて受講できるのも魅力です。興味のある方はお気軽にお問い合わせください。



北海道ドレスメーカー学院

Hokkaido Dress Maker College

〒064-0801 札幌市中央区南1条西22丁目1番1号 6F

TEL.011-618-1939 FAX.011-618-1940 (平日 9:00-17:00 土 9:00-13:00 日祝 定休)

✉ koho@doreme.ac.jp 🌐 http://www.doreme.ac.jp/

教育文化学部ニュース



恒例の北翔舞台芸術の2年目定期公演(1年目も参加する合同公演。西洋古典作品を上演)が行われました。今回はシェイクスピア作「夏の夜の夢」(訳 小田島雄志)を上演しました。今回の上演は、ステージの周り四方向に客席を配置するアリーナ舞台と言われる方法で初めて行いました。また授業で作成した被り物や特殊衣装、そして西洋古典作品では初めて、歌あり、踊りありと、楽しい舞台となりました。舞台衣装に関しては、服飾美術分野の学生を中心に制作してもらいました。

1月に行われる定期公演はライフデザイン学科の学生にとっては卒業公演となり、芸術学科の学生にとっては、来年度以降専攻する自らの専門を見つめ直す機会となりました。

術科
芸学
北翔舞台芸術定期公演
「夏の夜の夢」を上演しました



教育文化学部ニュース

育科
旧学科最後の卒業生を送る

教育学科開始以来3年が経過し、教育文化学部教育学科に移行した初等教育コース、幼児教育コース、養護教諭コース、音楽コースの前身である学科が終了する年になりました。それぞれの学科最後の学年がこの3月に学窓を飛び立ちます。

それぞれのコースの教育学科1期生は、すぐ上の学年として旧学科生と深く関わりました。特に、同じゼミにあつては、学科は違えども先輩として敬いながら、友情にも似た交流を深めてきたのです。

2月初旬に、各コースの旧学科で卒業研究発表会が開催されました。教育学科生は、先輩たちの努力の成果を見てその光景をしっかりと胸に刻み、果立ちゆく「友」へ惜しみないエールを贈ったことでしょう。このつながりを永遠のものとして。



理
心
2年次共同研究発表会
「苦勞を新たな
自信と喜びに」

心理カウンセリング学科では2年次で小グループに分かれ共同研究を行います。12月13日(火)、20日(火)の2回にわたって研究成果の発表会が開催されました。「音楽とストレスの関係」、「大学生の理想の恋愛と現実の恋愛について」、「大学生の講義中の居眠りについて」等、興味深いテーマで、調査や実験で得たデータを分析した結果と考察について、堂々とプレゼンテーションがなされていました。

ここまでの道は決して楽ではありませんが、その分、確かな自信に繋がったようです。発表会には1年生も参加し、先輩達の発表に熱心に聴き入り、次年度に向けて気持ちを投入していました。



生涯スポーツ学部ニュース

スポーツ
「健康運動指導士」「社会教育
主事」を対象とした
「新社会人研修会」の実施

平成28年9月、11月に実施された「健康運動指導士」認定試験にスポーツ教育学科4年生が8名合格しました。2回の合格率は72・7%と、全国平均を上回りました。資格取得者は、地方自治体が介護予防を指す「健康づくり教室」などで運動指導を行います。特に、「NPO法人ソーシャルビジネス推進センター」「コープさっぽろ」と連携して実施している「地域まるごと元気アッププログラム(まる元)」事業での活躍が期待されます。

また、4月から北海道内の市町村で社会教育主事など公務員として勤務する6名と合わせて、学部主催の「新社会人研修会」(全8回)に参加し、新社会人として必要なマナーやスキルを獲得し、健康運動指導士・社会教育主事としてふさわしい知識と技術、礼節を備えた人材となることを目指しています。



福祉
健康
自治体主催の認知機能測定会で、
学生が測定スタッフとして
活躍しました

平成26年8月から9月にかけて芦別市、赤平市、池田町、寿都町で行われた認知機能測定会に、「認知症予防活動派遣予定学生のための研修」を修了した本学科の学生が測定スタッフとして参加しました。この測定は病気の診断をするものではありませんが、席に着いた参加者はやはり緊張気味です。最初は堅くなっていた学生たちも、徐々に手際が良くなって参加者の様子に気を配る余裕が生まれ、和やかにコミュニケーションが取れるようになっていきました。最後はほかのスタッフや自治体職員とのミーティングに参加し、測定会全体についての理解を深めました。スタッフや参加者、多くの方々の思いに触れて、貴重な経験を積むことができました。



短期大学部ニュース

ライフ
デザイン
「地域とつながる地域資源の
活用」事業スタート

ライフデザイン学科1年次科目「ビジネスワークショップPI・II」では、1年間を通じて、ビジネススキルを養成することを目的としています。その一環として、本年度より江別市大学連携学生地域活動支援事業「地域とつながる地域資源の活用」に採択され、現在履修学生が主体となって活動を行っています。

学内にある北翔ショップを江別市文京台地区のアンテナショップとして活用、地域の生鮮食品や加工食品を取り扱い、地域の方々に安心・安全な食品を提供します。これらの活動を通じて、地域の方々と交流を図りながら、ビジネススキルを高めていくことが最終的な目標となっています。



も
こ
子どもと野外活動
「歩くスキー、スノーシューで
雪中探検」

子どもと野外活動「歩くスキー、スノーシューで雪中探検」では、幼稚園や保育園で役立つ冬の活動を、実技を通して学んでいます。例えば、雪中カルタ、しめ飾り、紙飛行機、野外炊事、イグルー作り、スノーキャンドル、そして12月24日(土)には「歩くスキー」や「スノーシュー」を身につけ、雪中探検を行いました。はじめは転んでばかりでしたが、だんだん慣れてきて終り頃にはとても楽しくなりました。





芸術学科の学生グループが 映像企画で最優秀賞を受賞！

10月14日(金)、北海道内の大学・短大・専門学校に在籍する学生を対象に開催された「北海道展示映像デザインコンペティション」において、芸術学科の学生グループ「北翔建築チーム」が最優秀賞を受賞しました。

メンバーは、芸術学科2年の黒崎知哉、越智一将、1年の佐々木拓人、山下達成の4名です。作品タイトルは、『子どもたちをITの未来につなぐスクリーンBOX』多面プロジェクト。

で表現するTK-80誕生の1976年から現代へです。このコンペティションでは、1976年に日本で開発された世界発のマイコンボードを題材にして、子どもたちや市民にITの可能性や夢を感じさせる展示映像企画を募集。最優秀賞の本学グループには、賞状(札幌市長賞)と賞金が授与されました。なお、優秀賞には北海道情報大、奨励賞には北海道教育大大学院と札幌市立大の各チームが選ばれました。



エアロビックス部・是枝亮、 日本代表選考会で優勝！

12月24日(土)に東京都北区の滝野川体育館において、エアロビックスの「シニア男女シングル部門第2次日本代表選手選考会」が開催されました。本学からは、エアロビックス部の是枝亮(大学院生涯スポーツ学研究科1年)が出場し、男子シングル部門で見事優勝。今年行われるワールドカップの日本代表に内定しました。



北海道大学女子駅伝メンバー	
1区	明 紗弓 (3年)
2区	堀井 ちなみ (2年)
3区	吉田 麻美 (4年)
4区	高橋 みづき (1年)
5区	八重樫 春香 (3年)
6区	星野 里奈 (4年)

(全員スポーツ教育学科)

8月20日(土)に札幌モエレ沼公園で開催された「第23回北海道大学女子駅伝対校選手権大会」において、陸上競技部女子駅伝チームが4連覇で5回目の優勝を飾ることができました。

2位に8分以上のタイム差をつけての圧勝でした。この結果を受けて、10月30日(日)に仙台で開催された「第34回全日本大学女子駅伝対校選手権大会」にも北海道学連代表として出場しました。

なお、今年度は男子駅伝も他大との合同チームで出場を果たしました。次年度は本学単独チームでの出場を目指します。

北海道大学女子駅伝で 4連覇、5回目の優勝！

中山智絵「遠くへ」
F100キャンパスに油彩



村田アグネス彩「毒味」
F100キャンパスにアクリル他



「第91回道展」において、芸術メディア学科(現・芸術学科)4年の中山智絵、村田アグネス彩の2名による作品が見事入選を果たしました。

道展は歴史のある美術の一般公募展覧会で、入選するためには高いレベルの描画力と表現力が問われます。2名の作品は10月19日(水)から11月6日(日)まで、札幌市民ギャラリー(中央区南2東6)で展示されました。

芸術メディア学科の 学生2名が道展で入選！



男子バレーボール部が 7年ぶりに道内を制覇！

11月19日(土)・20日(日)に開催された「第67回北海道大学バレーボール選手権大会」において、男子バレーボール部がフルセットにおよぶ決勝戦を制し、7年ぶり3回目の栄光を手に入れました。

同大会は、春季・秋季リーグ戦と並ぶ道内大学の重要な大会であり、秋季リーグの優勝チームと2位チームを撃破しての優勝には大きな価値があります。MVPには、キャプテンの厚海孝司(学習科)が選ばれました。

男子バレーボール部が 7年ぶりに道内を制覇！



今年度は全チームから挑戦を受ける立場を自覚し、これまで以上に真摯に日々の練習に励み、結果として、昨年度に引き続き、北海道大学との対戦となりましたが、本学女子ラクロス部が見事勝利を収め、2連覇で7回目の優勝を果たしました。

今年度は全チームから挑戦を受ける立場を自覚し、これまで以上に真摯に日々の練習に励み、結果として、昨年度に引き続き、北海道大学との対戦となりましたが、本学女子ラクロス部が見事勝利を収め、2連覇で7回目の優勝を果たしました。

女子ラクロス部が 2連覇、7回目の優勝！

10月16日(日)に札幌厚別公園競技場にて「第22回北海道学生ラクロスリーグ戦」の決勝戦が行われました。昨年度に引き続き、北海道大学との対戦となりましたが、本学女子ラクロス部が見事勝利を収め、2連覇で7回目の優勝を果たしました。

Pには奥田りな(スポーツ教育学科4年)が選ばれました。

決勝戦当日は、多くの皆さまから応援をいただき、誠にありがとうございました。今回の優勝を受け、11月13日(日)には「第8回全日本ラクロス大学選手権大会」にも出場しました。



チンク学科(現・教育学科)4年、ベスト7には池田智晴(教育学科3年)が選出されました。

この結果を受け、11月28日(月)から開催された全日本インカレにも出場しました。たくさんの方の応援をいただき、ありがとうございました。引き続きご支援・ご声援をよろしくお願いいたします。

チンク学科(現・教育学科)4年、 ベスト7には池田智晴(教育学科3年)が選出されました。

2016年度北海道学生ラクロスリーグ戦			
期間	8月11日開幕～10月16日閉幕	成績	6勝1敗
(予選)			
8月13日	vs 藤女子大学	14対1	勝利
8月27日	vs 北海道大学	5対7	敗北
9月3日	vs 北海学園大学	16対1	勝利
9月10日	vs 北海道科学大学	27対5	勝利
9月19日	vs 北星学園大学	17対4	勝利
9月25日	vs 酪農学園大学	12対3	勝利
10月2日	vs 北海道教育大学	13対6	勝利
(決勝戦)			
10月16日	vs 北海道大学	10対7	勝利



「平成28年度北海道科学技術賞・北海道科学技術奨励賞」の贈呈式が2月23日(木)、札幌のセンチュリーロイヤルホテルで執り行われ、スポーツ教育学科の山本敬三教授が北海道科学技術奨励賞を受賞しました。

北海道科学技術奨励賞とは、北海道の発展に寄与することが期待される科学技術上の優れた発明、研究を行い、今後の活躍が

スポーツ教育学科・山本敬三教授 北海道科学技術奨励賞を受賞！

「平成28年度北海道科学技術賞・北海道科学技術奨励賞」の贈呈式が2月23日(木)、札幌のセンチュリーロイヤルホテルで執り行われ、スポーツ教育学科の山本敬三教授が北海道科学技術奨励賞を受賞しました。

北海道科学技術奨励賞とは、北海道の発展に寄与することが期待される科学技術上の優れた発明、研究を行い、今後の活躍が

9月3日(土)・10月23日(日)、「北海道大学バスケットボール選手権大会(男子第68回、女子第61回)」が道内各大学を会場に行われ、本学の女子バスケットボール部が全勝優勝に輝きました。

この結果を受けて、11月21日(月)から東京で行われた「全日本大学バスケットボール選手権大会」にも出場しました。今後とも温かいご声援、ご協力をよろしくお願いいたします。

女子バスケットボール部が 全勝優勝を達成！



北海道大学 バスケットボール選手権大会 (女子)	
優勝	北翔大学 (14勝)
2位	札幌大学 (12勝2敗)
3位	拓殖大学北海道短期大学 (9勝5敗)
個人賞	
MVP (最優秀選手賞)	小澤綾佳(3年)
優秀選手賞	杉内那緒(4年)
MIP (最も印象に残った選手)	太田みなみ(2年) 土谷きり(1年)
(全員スポーツ教育学科)	

期待される若手研究者に、知事表彰として贈呈されるもので、山本教授の功績名は「スキージャンプの競技力向上を目的とした科学研究とその知見に基づく選手支援の実践」となっています。

山本教授は、ジャンプ競技のパフォーマンスを決定づける踏切に着目し、数理学的手法で動作分析や流体解析を行い、最適動作を模索。これは世界的にも新規性が高い研究で、約8年にわたる検証を経て妥当性のある知見を得ることに成功しました。

研究成果と指導現場をつなぐツールとして、選手が簡単に力学測定できるソフトウェアを開発し、実際に現場で使用されています。また、下川町のジャンプ少年団の科学サポート活動を通して次世代選手の育成にも尽力するなど、ジャンプ競技に対する多様な功績が評価されました。

バッグで、大人の男が持ち歩いているのに違和感を抱いた学生から質問されることもありまし



羽織袴とクマのバッグ
私は大学を卒業後、釧路で中学校教諭として10年間、それから北海道教育委員会、10年間働いた後、ちょうど20年前の1997年に本学へやってまいりました。それまでの「北海道女子短期大学」から「北海道女子大学」となった記念すべき年です。

着任1年目で経験した卒業式は、とても印象に残っています。約千人の女子学生のほとんどが羽織袴を着ている光景に圧倒され、あらためて女子大に来たんだなというのを実感した瞬間でした。

女子つながりでいえば、私が着任当初から使っていた学内移動用のバッグは、当時小学生だった娘からのおさがりです。かわいいうまのイラストが描かれた

た。娘がもう使わないというので、小学校2年生だった息子に使わせようとしたら「女の子っぽい」と断られ、私のものになりました(笑)。実のところ、20年経った今も現役で活躍しています。

学部開設の大仕事

1年目の最初の3か月間は、ゆとりのある毎日を過ごし、「大学の先生っていいもんだな」などと思っていたのですが、7月からは状況が一変しました。新しい4年制学部の設置に向けた準備室の一員になったのです。

室長の阿部典英教授と2年間で数十回、東京の文部省(現在の文部科学省)に通いました。申請書類を作っては持って行き、説明を繰り返す日々が報われたのは1999年12月のこと。ついに新学部の設置認可が降りたんです。

「生涯学習システム学部」という、当時国内では初めて「生涯学習」という言葉を名称に組み入れた学部でした。何もないところから新しいものを作るという大きなエネルギーが必要でした。その分だけ大きな経験となりました。

男女共学による躍動

生涯学習システム学部の設置に伴い、男女共学になったのも大きな変化でした。やはり男子学生は体が大きいので、同じ人数でもこれまでより教室が狭くなったように感じたものです(笑)。もともと盛んだった部活動も、いっそう活発になりました。硬式



野球部は4部リーグからスタートして、最短期間で1部まで昇格したと記憶しています。男子バレーボール部や男子バスケットボール部なども同様に駆け上っていきました。まだ練習場などの設備も整っていない状況でしたが、女子のレベルの高さに負けず、男子も一生懸命にがんばったんですね。こうした部活動の快進撃を通して、大学全体の活気がさらに高まったのを肌で感じました。

ゼミ生とスキー合宿

学生との思い出で忘れられないのは、初めて受け持った専攻科のゼミ生と、卒業旅行を兼ねてニセコでスキー合宿をしたことです。女子学生12人に対して、引率は私1人だけ。本当にいいのかなと少し不安になりながら、学科長からもらった承を得て行きました。日中はスキーの滑り方を教えてあげて、全員成人でしたので夜は宴会を楽しみました。これがそのときに

一流の大学

生涯学習システム学部には2006年に学習コーチング学科が開設され、現在の教育文化学部・教育学科へと引き継がれています。時が流れても変わらないのは、教員や保育士など、それぞれの目標を持った学生たちが集い、一生懸命に勉強をしているということ。そして、とても礼儀正しい学生ばかりです。学外のお客さまから、「こちらの学生さんは、きちんとあいつをしてくれますね」とお褒めの言葉をいただくことも多いです。教員のみなさんも、学生の目標達成に向け、いつも丁寧に寄り添ってくれていると感じます。

My Life 2 My Story

ひとの数だけ物語がある。

北翔大学・北翔大学短期大学部 副学長
教育学科・大学院生涯学習学専攻 教授

山谷 敬三郎

Keizaburo Yamaya

1952年 遠軽町出身
1976年 北海道教育大学・教育学部を卒業
1997年 本学短期大学部・初等教育学科に助教として着任
2010年 東北大学大学院博士課程後期を修了 博士(教育情報学)

・所属学会
日本教育心理学会代議員
日本応用教育心理学会理事
日本学校心理学会理事
北海道教育相談スーパーバイザー など役職多数



2017-2018 Open Campus 開催日	
第1回	5/21(日)
第2回	6/11(日)
第3回	①8/5(土) ②8/6(日)
第4回	9/10(日)
第5回	3/11(日)[2018年]

※①②の開催内容は同様です。
すべて11時スタート、15時30分終了予定

お問い合せ先
北翔大学・北翔大学短期大学部
アドミッションセンター
電話 011-387-1390
FAX 011-387-3739
メール info@hokusho-u.ac.jp

3月12日(日)にオープンキャンパスを開催します。学科説明や北翔ラボ(各学科の体験授業)、PALキッチン(学食体験)、保護者説明会など、多彩なイベントを体験していただけます。当日はオープンキャンパス運営サークルPALC(バルシー)が高校生、保護者のみなさまをしっかりとサポート。進学に対する疑問・不安にもお答えします。ご家族や身のまわりで本学に興味をお持ちの方へ、ご参加くださるようお声掛けをお願い致します。無料送迎バスを道内各都市より運行しております。詳細はホームページにてご確認ください。学生スタッフ・教職員一同、心よりご参加お待ちしております。

3月12日(日)
Open Campus
開催!!

2017年4月～8月 [共通行事予定]	
4月	4日(火) 在学生オリエンテーション
	5日(水) 入学式(10:00)
	6日(木) 新入生オリエンテーション(～7日)
	10日(月) 前学期講義開始
5月	1日(月) 休校日
	2日(火) 休校日
	21日(日) オープンキャンパス①
6月	11日(日) オープンキャンパス②
7月	17日(月) 〈海の日〉月曜日授業
8月	5日(土) オープンキャンパス③
	6日(日) オープンキャンパス④
	7日(月) 免許状更新講習(～11日)
	12日(土) 夏季休業日(教職員)(～16日)
	25日(金) 第1期編入学試験 学内公開日
	26日(土) 第1期編入学試験 (7号棟・PAL棟立入禁止)



同窓会ニュース
杜の都駅伝
皆で応援 (仙台支部)
毎年10月末に仙台で開催される全国大学女子駅伝。
本学が4年連続で出場を決めているのですが、同窓会は仙台近郊の卒業生に呼びかけ応援をしました。今年は、遠く秋田、八戸からの参加もあり大いに盛り上がりました。とは言え人数が圧倒的に足りず、他大学のそれと比べ少人数のため全国テレビ中継に北翔大学の旗を映りこませる目的は十分に果たせませんでした。
しかし、後輩が小さな身体でたすきを必死に繋ぐと頑張る姿は順位関係なく今年も応援できて良かったと感動させられるものでした。
仙台支部の方々応援ありがとうございます。

北翔大学 寄付金募集のご案内

本学では、このところの経済不況により修学の継続が困難な学生が増加しており、学生への支援とあわせて、良質な教育環境を今後も維持していくために、寄付金を募集しています。
ご支援を賜りました寄付金は有効に活用させていただきます。有能な人材の輩出、社会に役立つ研究成果を通して、広く社会に還元し、貢献してまいります。
ご寄付をいただいた金額に税制上の優遇措置を受けることができますので、企業等法人及び個人の皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【寄付金 募集期間】
平成31年5月まで
(常時受入れさせていただきます)

【お問い合わせ】
総務部総務課まで
詳細は本学ホームページ
<http://www.hokusho-u.ac.jp>
をご覧ください。

合格おめでとうございます!

平成29年度
教員採用候補者選考検査
第2次選考合格者数

98名

平成29年1月20日現在(卒業生も含む)

今年もたくさんの
「せんせい」が生まれます!

北翔大学では、前身である北海道女子短期大学を1963年に開設以来、主に北海道内の教育現場へと多数のせんせいを送り出してきました。長い歴史が培った教員養成のノウハウと、担当教員の親身な指導によって、現在も高い合格実績を誇っています。

御礼申し上げます

淑翠会様より133,566円のご寄付をいただきました。(平成28年度)

職人工房株式会社様より20,000円のご寄付をいただきました。(平成28年度)

ご支援を賜りましたことを、厚く御礼申し上げます。